

平成29年12月22日

幕別町議会議長 芳滝 仁 様

総務文教常任委員会委員長 小川 純文

所管事務調査報告書

本委員会において、次のとおり所管事務調査を終了したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 道内先進地視察調査

(1) 視察期日 平成29年10月12日～13日（2日間）

(2) 出席委員 小川純文、荒貴賀、内山美穂子、中橋友子、乾邦廣
（以上5人）

(3) 視察項目及び視察先等

[北広島市]

【視察項目】

・小中一貫教育の実施に向けた取組について

①視察日 平成29年10月12日

②視察先 北広島市

③対応者 北広島市議会事務局 事務局長 仲野邦廣 氏
北広島市教育委員会 教育部次長 佐藤直己 氏ほか

④視察目的

平成29年4月から幕別町内2つの中学校区で施設分離型と施設隣接型小中一貫教育モデル校がスタートするため、北広島市の小中一貫教育の取組を調査する。

⑤視察内容

導入の経緯や推進体制、成果と課題などについて説明を受けた。

⑥所見

北広島市内の小中学校は14校で、既存校舎を使用する校舎分離型小中一貫教育を進めており、6校の中学校区ごとに各地域の特色を踏まえ、9年間のカリキュラムを作成している。

平成23年度から全中学校区で小中連携を意識した情報交換や研修に取り組んできた経緯があり、この成果を基に平成28年度に準備委員会を発足。平成29年4月には教育委員会内に小中一貫教育課を新設し、次長として配置した元校長が現場とのパイプ役を担っている。来年度の全中学校区一斉導入に向け、副教材「きたひろ夢ノート」の活用や小学校と中学校相互の乗り入れ授業、異学年交流や地域行事への参加なども積極的に行うなど体制を強化しており、将来的にはコミュニティスクールの導入も考えているとのことであった。

石狩総合振興局管内の全市町村の教員で組織されている「石狩管内教育研究会」において、小中一貫教育についての研修会が行われており、教員の異動に伴う弊害も緩和されているとの説明があった。これまでの取組の積み重ねと、北広島市の積極的な姿勢、学校現場との連携がなされていると感じた。



小川委員長あいさつ



佐藤教育部次長から説明を受ける

[当別町]

【視察項目】

・小中一貫教育の実施に向けた取組について

①視察日 平成29年10月13日

②視察先 当別町

③対応者 当別町議会事務局 事務局長 野村雅史 氏

当別町教育委員会 管理課長 北村和也 氏ほか

④視察目的

当別町の小中一貫教育の取組を調査する。

⑤視察内容

導入の経緯や推進体制、成果と課題などについての説明を受けた。

⑥所見

当別町では昭和20年代に小学校15校、中学校8校あったが、統廃合が行われ、現在は当別地区と西当別地区に小学校、中学校が1校ずつ配置されている。

平成26年度に教育委員会内に一貫教育推進係を設置し、係長職1名と北海道から派遣された職員1名（主幹職）の2人体制としている。

小中一貫教育導入にあたり、数学と英語の科目で小中一貫教育推進講師4人を非常勤で町独自で加配したほか、現場の「教師の力」を高めるために、元校長が指導員としてパイプ役となっている。また、当別町は平成13年度から学校評議員制度を実施し、小中一貫校についても議論してきており、今後はこの評議員制度を発展させる形でコミュニティスクールに移行するとの説明であった。後藤議長をはじめとする町議会議員も10年前から小中一貫教育の取組に積極的に関わってきており、町ぐるみで取り組んでいる状況を学んだ。



後藤当別町議会議長からの説明



一貫教育担当主幹から説明を受ける

[南幌町]

【視察項目】

・町民プールについて

①視察日 平成29年10月13日

②視察先 南幌町 南幌町民プール

③対応者 南幌町議会事務局 事務局長 山内 貢 氏
南幌町教育委員会 生涯学習課長 浅野 茂 氏ほか

④視察目的

今後の幕別町プールのあり方などを探るため、南幌町民プールについて調査する。

⑤視察内容

建設の概要や管理・運営方法、学校プールとの位置づけについて説明を受けた。

⑥所見

町民プールの新設は町民からの要望が多く寄せられたことで、第5期総合計画に位置づけ進めていった経緯がある。森林整備加速化・林業再生総合対策事業補助金を使って平成28年度に季節型温水プールとして開設した。建設当初、通年開設で行うことについて議会で議論がなされたが、光熱費などのコスト面がかかり過ぎることから断念したという話を伺った。

道産材を使用しているため、木のぬくもりがあり暖かい感じがするが、水を使う施設のため、10年ごとの塗り替えが必要との説明があり、開設して2年目であったが視察時に天井の梁に黒いカビが複数箇所見受けられた。

小学校の授業などのほか、教育委員会と福祉課が連携して介護予防普及啓発事業の一環で高齢者水中運動教室を実施しており好評を得ている。

施設内容・規模は、町民の要望に沿ったものであり、幕別町においても、今後のプール建設にあたっては、将来的なコストの面も考

慮し、住民の要望を踏まえ、慎重に検討していく必要があると認識した。



三好南幌町長からのあいさつ



南幌町民プールを視察

平成29年12月22日

幕別町議会議長 芳滝 仁 様

民生常任委員会委員長 岡本 眞利子

所管事務調査報告書

本委員会において、次のとおり所管事務調査を終了したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 防災及び危機管理に関する事項

- (1) 調査期日 平成29年11月8日（1日間）
- (2) 出席委員 岡本眞利子、田口廣之、高橋健雄、小田新紀、
小島智恵、藤原孟（以上6人）
- (3) 欠席委員 板垣良輔
- (4) 調査内容

①幕別本町地区防災備蓄倉庫について

幕別町防災備蓄計画は、マグニチュード7.4の地震が発生した場合の避難所生活者を6,173人と想定し、行政が行う備蓄数量や防災備蓄倉庫等について計画したものであるとの説明を受けた。幕別本町地区防災備蓄倉庫の視察では、備蓄用品、棚の配置について質疑を行った。

②幕別町職員災害対応ハンドブックについて

本年8月に作成されたハンドブックに記載されている災害発生後の参集の流れ、職員の配備体制等について説明を受けた。

また、昨年の水防法の改正に伴い、150年に1度の確率から1,000年に1度の確率に見直しされたことにより、主に札内地区において洪水浸水予測範囲が拡大した。町では、新しい幕別町洪水ハザードマップを作成し、防災のしおりにあわせて12月に全戸配布するとの説明を受けた。

2 国民健康保険及び国民年金に関する事項

- (1) 調査期日 平成29年11月8日（1日間）
- (2) 出席委員 岡本眞利子、田口廣之、高橋健雄、小田新紀、
小島智恵、藤原孟（以上6人）
- (3) 欠席委員 板垣良輔
- (4) 調査内容

①国民健康保険の広域化について

平成30年度から広域化される国民健康保険について、平成29年8月に公表された第3回仮算定による本町の現行保険税の見込みや住民周知の方法、今後のスケジュールなどについて説明を受けた。

北海道の激変緩和措置に係る減収に伴う財源措置やジェネリック薬品について質疑を行った。



会議の様子



幕別本町地区防災備蓄倉庫を視察

3 道内先進地視察調査

- (1) 視察期日 平成29年10月24日～25日（2日間）
- (2) 出席委員 岡本眞利子、田口廣之、板垣良輔、高橋健雄、
小田新紀、小島智恵、藤原孟（以上7人）
議長 芳滝仁

(3) 視察項目及び視察先等

[芽室町]

【視察項目】

・障がい者への就労支援（就労継続支援A型事業）について

①視察日 平成29年10月24日

②視察先 株式会社 九神ファームめむろ

③対応者 株式会社 九神ファームめむろ

職業指導員 濱野達也 氏

芽室町 保健福祉課 障がい福祉係長 吉川泰子 氏

④視察目的

最低賃金を保障する就労継続支援A型事業所として、知的障がいや発達障がいのある方を雇用し運営している事業所を視察し、障がいのある方も誰もが働いて生きていくことのできる先進的なまちづくりの取組を調査する。

⑤視察内容

町からは、だれもが当たり前で働いて生きていける「プロジェクトめむろ」構想と株九神ファームめむろの設立の経緯を、株九神ファームめむろからは、就労継続支援A型事業所の概要について説明を受けた。

⑥所見

株九神ファームめむろは、自社生産した農産物を加工（じゃがいもの皮むきなど）して四国・九州を中心に展開する惣菜店で親会社である(株)クックチャムへ販売している。「障がいのある子どもたちの働く場所を作りたい」という芽室町の思いと「障がい者の雇用を拡大したい。十勝平野に自社農園を」という(株)クックチャムの思いが結びつきNPO法人プロジェクトめむろが発足し、2013年4月、株九神ファームめむろは事業を開始した。

株九神ファームめむろの最も大きな強みは、加工した製品の全量を(株)クックチャムに買い取ってもらえる、その堅実な収益性にあり、従業員の通年雇用を実現できている。

課題として、皮の剥きすぎにより、じゃがいもの歩留まり率は6～7割、原材料の3～4割を廃棄していることと、作業のできる作業員ほど一般就労に移行してしまい、作業の生産性が落ちてしまうことが挙げられていた。

今回の視察で障がい者の就労支援、乳幼児から就労期まで一貫性と継続性のある支援を構築すること、発達支援システムの一端を深く学ぶことができた。



㈱九神ファームめむろ(概要説明)



作業風景

[富良野市]

【視察項目】

・富良野地域生活支援センターの概要について

①視察日 平成29年10月24日

②視察先 社会福祉法人エクウエート富良野

③対応者 社会福祉法人エクウエート富良野

富良野地域生活支援センター センター長 久田 到 氏ほか

④視察目的

障がい児者が住み慣れた地域において生活できるよう、先進的な支援等の整備体制についての取組を調査する。

⑤視察内容

富良野地域生活支援センターの概要(委託事業等、相談体制)、富良野地域自立支援協議会の概要と連携について説明を受けた。

⑥所見

富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の富良野圏域5市町村から事業の委託を受け、職員8名を配置している。365日24時間対応の相談支援体制(夜間は転送電話)が組み立てられており、相談されるご家族としても安心感につながっていると感じた。地域生活支援拠点整備では、町村同士の横のつながりが強化され、担当者同士の相

談等が頻繁に行われている。富良野地域自立支援協議会の事務局では平成25年より機能の見直しを行い、部会を設置し活動が活発化している。幼児健診にて発達が遅れがある子供が増加しており、現状としても市の母子通園センターは定員いっぱいである。発達の遅れに関し、保護者の半分ほどは十分な理解がなされていないとのことである。卒園までのアプローチや連携が大事であり、小学校入学の際に特別支援学級に通級するかは保護者の判断によるので、普通学級では勉強についていけなくなり、高校で引きこもりになるケースもあるとのこと。早期に保護者の理解や認識を深めていただくことの重要性も学んだ。



岡本委員長あいさつ



久田センター長から説明を受ける

[北竜町]

【視察項目】

・認知症予防事業について

①視察日 平成29年10月25日

②視察先 北竜町

③対応者 北竜町議会事務局 事務局長 山田伸裕 氏
北竜町 住民課長 中村道人 氏ほか

④視察目的

認知症の不安を65歳以上の高齢者の83%の方が感じている。それゆえに北竜町は、地域住民が「認知症は予防できる」という認識を持つことが不可欠であると、平成28年9月18日に「認知症になりにくいまちづくり宣言」を制定し、定期的な認知症予防活動の実施が、高齢者の認知機能を維持・向上する効果あるいは抑制する効果があるのかについて明らかにする取組について調査する。

⑤視察内容

「地域まるごと元気アッププログラム」略して「まる元」は、コープさっぽろ、北翔大学、NPO法人「ソーシャルビジネス推進センター」と自治体とが一体となって、健康運動指導士による運動教室を提供するプログラムである。

運動の専門者が、無理なく、安全・安心・科学的に町民の健康のお手伝いをする認知症予防実験などについて説明を受けた。

⑥所見

認知症に対する情報が少ないので不安に感じているが、予防は何もしていないのが多くの高齢者の実態である。北竜町は、運動プログラムである「まる元」を推進することで、町全体で認知症になりにくいまちづくりを目指している。

幕別町においても、北竜町の「認知症になりにくいまちづくり宣言」や認知症予防に向けた取組を参考にして、子供たちに負担をかけないいつまでも元気で暮らせる地域づくりに前向きに取り組むことを研究すべきと感じた。



佐野北竜町長からのあいさつ



中村住民課長から説明を受ける

平成29年12月22日

幕別町議会議長 芳滝 仁 様

産業建設常任委員会委員長 野原 恵子

所管事務調査報告書

本委員会において、次のとおり所管事務調査を終了したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 道路、河川及び公園に関する事項

- (1) 調査期日 平成29年11月9日（1日間）
- (2) 出席委員 野原恵子、東口隆弘、若山和幸、藤谷謹至、千葉幹雄、寺林俊幸（以上6人）

(3) 調査内容

①主要道道幕別帯広芽室線の整備計画概要について

帯広圏総合都市交通マスタープランにおいて、唯一未整備となっている道道幕別帯広芽室線の整備計画概要について説明を受け、現地確認の上、道路整備位置や交差点等の安全性などについて調査を行った。

計画では、平成30年度までに用地買収を行い、31年度から工事着手、34年度完了である。

委員からは、既存の町道等との交差点が鋭角で危険と思われる場所が数か所あるとの意見が出された。



主要道道幕別帯広芽室線事業起点（白人橋東側）



町道日新線交差点（吐月橋南側）

2 建築及び住宅に関する事項

- (1) 調査期日 平成29年11月9日（1日間）
- (2) 出席委員 野原恵子、東口隆弘、若山和幸、藤谷謹至、千葉幹雄、寺林俊幸（以上6人）
- (3) 調査内容
 - ①幕別町住生活基本計画について
 - ②幕別町公営住宅等長寿命化計画について

町営あかしや南団地の現状、完成した道営あかしや南団地と町営春日東団地の現地調査を行ったあと、幕別町住生活基本計画と幕別町公営住宅等長寿命化計画について説明を受けた。

国や北海道の住生活基本計画の改定や幕別町人口ビジョン、幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略などの策定を受けて、それらとの整合性を図り、見直しを行っているとの説明を受けた。

委員から、人口ビジョンで地域人口が減っていく中での公営住宅の供給戸数や高齢者のニーズにあった供給が行われているか、減価償却後に所得制限などをなくして入居できる制度はないのかなどの質疑を行った。



町営あかしや南団地の住戸



町営春日東団地の住戸

3 道内先進地視察調査

- (1) 視察期日 平成29年10月2日～3日（2日間）
- (2) 出席委員 野原恵子、東口隆弘、若山和幸、藤谷謹至、千葉幹雄、寺林俊幸（以上6人）
- (3) 視察項目及び視察先等

[札幌市]

【視察項目】

・北海道農業研究センターにおける研究等について

- ①視察日 平成29年10月2日
- ②視察先 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター
- ③対応者 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター
企画部部長 森 元幸 氏ほか
- ④視察目的

有害線虫のまん延に対する管理技術の研究、土壌管理・診断技術の開発状況及び北海道、十勝管内における近年の研究動向・成果等について調査する。

⑤視察内容

北海道及び十勝における有害線虫（ジャガイモシストセンチュウ）の発生状況、管理状況及び対策。土壌診断の有効性、土壌内に生息する土壌菌の研究成果などについて説明を受けた。

⑥所見

有害線虫の被害状況、対策など正しい情報を踏まえ、幕別町において予防対策に当たることが必要であると認識を深めた。次世代のニーズに合った育種研究、輪作を踏まえた土壌診断結果など、多岐にわたる意見交換を交え農業研究の現状を深く学んだ。



農業研究センター(概要説明)



農業研究センター(土壌研究の説明)

[江別市]

【視察項目】

・食品加工研究センターにおける研究等について

①視察日 平成29年10月3日

②視察先 北海道立総合研究機構産業技術研究本部
食品加工研究センター

③対応者 北海道立総合研究機構産業技術研究本部
食品加工研究センター 所長 北川雅彦 氏ほか

④視察目的

幕別町は広大な農地を利用した畑作、酪農など高品質な農畜産品が生産されている。一方、豊富な地場農畜産物への付加価値の創出という食品加工、特産品開発等には課題がある。北海道における農畜産物等を活用した食品加工の取組を調査する。

⑤視察内容

北海道立総合研究機構の組織概要・体制、研究の展開方向、技術

支援実績と支援制度の概要、成果事例、試作実証などについて説明を受けた。

⑥所見

企業団体に対する支援として施設内の一室を有料で一定期間レンタルし、検査機器及び製造機械を使って食品開発等を行うことができ、高額な検査機器に設備投資を要せず、さらに施設研究員の助言・指導等も受けることができる。研究成果では、農家の漬け物樽の中から植物性乳酸菌「HOKKAIDO株」を発見し、この乳酸菌を使用した多彩な商品が開発されている。また、廃棄物処理にコストを要していた魚の加工工場の副産物を発酵させ、うま味が豊富な魚醤油を製造するなど、道内各地で様々な原料から魚醤油が作られるようになった。北海道の豊かな農水産物を原料とした道産食品の移輸出拡大に向けた研究開発に取り組んでいる現場を視察し、本町における高品質な農畜産物にも十分な可能性があると感じた。



食品加工研究センター(概要説明)



食品加工研究センター(検査機器説明)

[新篠津村]

【視察項目】

・指定管理者制度による、道の駅及び周辺施設の管理運営状況等について

①視察日 平成29年10月3日

②視察先 道の駅しんしのつ（しんしのつ温泉たっぷの湯）

③対応者 新篠津村議会議長 藤永康夫 氏ほか

④視察目的

指定管理者制度による、道の駅しんしのつ及び周辺施設の管理運営状況について調査する。

⑤視察内容

平成9年6月、宿泊研修施設「しんしのつ温泉たっぷの湯」を開業。平成22年11月、同施設に併設されるかたちで道内110番目の「道の駅しんしのつ」としてオープンした。平成23年8月、隣接地に「しんしのつ産直市場」を整備し、公設の「しんしのつ産直合同会社」を設立。周辺施設には、しんのつ公園、しんのつ湖、石狩川河川敷等があり、ゴルフ場、パークゴルフ場やキャンプ場、冬はワカサギ釣りなど通年型の観光施設となっている。平成28年3月からは、第三セクターによる運営から、公募による指定管理者の新篠津開発株式会社により運営され、各施設の平成28年度の年間売上額（たっぷの湯266,404千円、産直市場60,857千円）及び利用者数（たっぷの湯147,653人、産直市場59,270人）等について説明を受けた。

⑥所見

「グランピング」など毎年新たな取組を展開している。札幌近郊ということもあり、テレビ取材等による宣伝の効果は大きな反響がある。毎年の指定管理料（委託料）の支払はないが、20年を経過した温泉宿泊研修施設の修繕費用の課題があるということで、計画的な改修を指定管理者と協議している。道の駅・宿泊施設・公園等の施設を結び付け、その相乗効果を発揮しながら地域活力を創出する取組や施設老朽化など、本町における現状を重ね意見を交換した。



道の駅しんしのつ(野原委員長あいさつ)



道の駅しんしのつ(グランピングテント)